

20. 前置詞 (2)

1. 3・4格支配の前置詞

以下の9つの前置詞は3格あるいは4格のいずれかと結びつくものですが、3格とともに使った場合と4格とともに使った場合では、前置詞句全体の意味が違います。

an	「…のきわ、ところ」	at
auf	「…の上」	on, upon
hinter	「…の後ろ」	behind
in	「…の中」	in, into
neben	「…の隣」	by the side
über	「…の上方」	above, over
unter	「…の下」	below, under
vor	「…の前」	before
zwischen	「…のあいだ」	between

これらの前置詞のあとに3格の名詞または代名詞があると、場所を示す「で」を、4格の名詞または代名詞があると、方向を示す「へ」をつけて訳します。これはちょうど英語の *in* 「中で」と *into* 「中へ」の違いと同様です。以下の例を見て下さい。

Ich gehe in dem Haus.	「私は家の中で行く(歩く)」
Ich gehe in das Haus.	「私は家の中へ行く(入る)」

またこれらの前置詞は本来はものの位置関係を示すものですが、時代とともにいろいろな意味で使われるようになりました。例えば

an dem Sonntag	<i>on Sunday</i>
vor 3 Jahren	<i>before 3 years</i>

などの場合はいずれも「時」の意味に転化してもちいられています。

注意すべき前置詞としては、an は接触や近接をあらわす「…の表面」「…のきわ」という意味が本来の意味で、英語の *on* と似ているからといって「…の上」としてはいけません。「…の上」という意味では *auf* が使われます。一方 *über* は英語の *over* と同様に「…の上方」「…の上空」という意味で、空間があることを示しています。*zwischen* は「…のあいだ」という意味からもわかるように、この前置詞のあとにはかならず2個以上あるいは複数形の名詞や代名詞が必要です。また2格支配の「…のあいだ(期間)」を示す *während* と混同しないようにして下さい。

2. 格支配の概念がうすい前置詞

これまで述べたようにドイツ語の前置詞はかならず格支配をするのですが、なかには前置詞のあとに無冠詞の名詞や副詞などをとるために、格支配を意識しないものもあります。

ab	「…以降」 「…発」 (飛行機や列車の時刻表では ab が「…発」、an が「…着」の意味でもちいられます)	ab September ab München	「9月以降」 「ミュンヘン発」
bis	「…まで(時間)」 「…まで(空間)」	bis morgen bis Berlin	「明日までに」 「ベルリンまで」
per	「…によって」	per E-Mail	「Eメールで」
pro	「…につき」	5 Euro pro Person dreimal pro Woche	「ひとり5ユーロ」 「週3回」

3. 前置詞句をもちいるときに気をつけなくてはならないことがあります。それは、英語とは違って前置詞句とそれがかかる文のあいだにはコンマをおかない、ということです。例えば、

In dem Restaurant, wir essen mit dem Freund.

という文はドイツ語では間違いで、正しくは

In dem Restaurant essen wir mit dem Freund.

でなくてはなりません。しかも前置詞句が文の先頭におかれているため、主語以外のものが文の先頭にあればかならず定形倒置となることに気をつけて下さい。

4. 前置詞と定冠詞の融合形

ドイツ語ではある種の前置詞と定冠詞は、まとめて1つの形に融合することがあります。定冠詞をとくに「その」と強く訳す必要がないときにはしばしばこの融合形がもちいられます。しかし融合形をもちいないと間違いだということはありませんが、日常的にはこのほうが簡単ですからしばしばもちいられるのです。

am = an dem
vom = von dem

beim = bei dem
zum = zu dem

im = in dem

zur = zu der

ans = an das
fürs = für das
vors = vor das

aufs = auf das
ins = in das

durchs = durch das
ums = um das

つまり、融合するのはある特定の前置詞と、定冠詞の男性および中性3格の dem、女性3格の der、中性4格の das だけに限られています。